



□ 9
3448
3



3448
8

第一 揚白之金と還して福と得たる事

横濱 木村屋

小立寄向く様氣なる佛壇と賞潤もや向巫に持回り、内
一糊る紙と指新く糊りてとまき紙乃内より
金十枚なり。揚白之金と還りて紙乃内小籠
なる必定持主死料も金ありん我今借金と知るるを今
の中に福分何れんば永く保申申す。娘に借金と申
まふも小還さんよとまき紙を素子を大小割して曰は力福
もく天よりとまき紙を飛た實と何ぞ再び其めし還るる
何らんやあけ金と申讀しとまき紙賣りて

横濱 木村屋

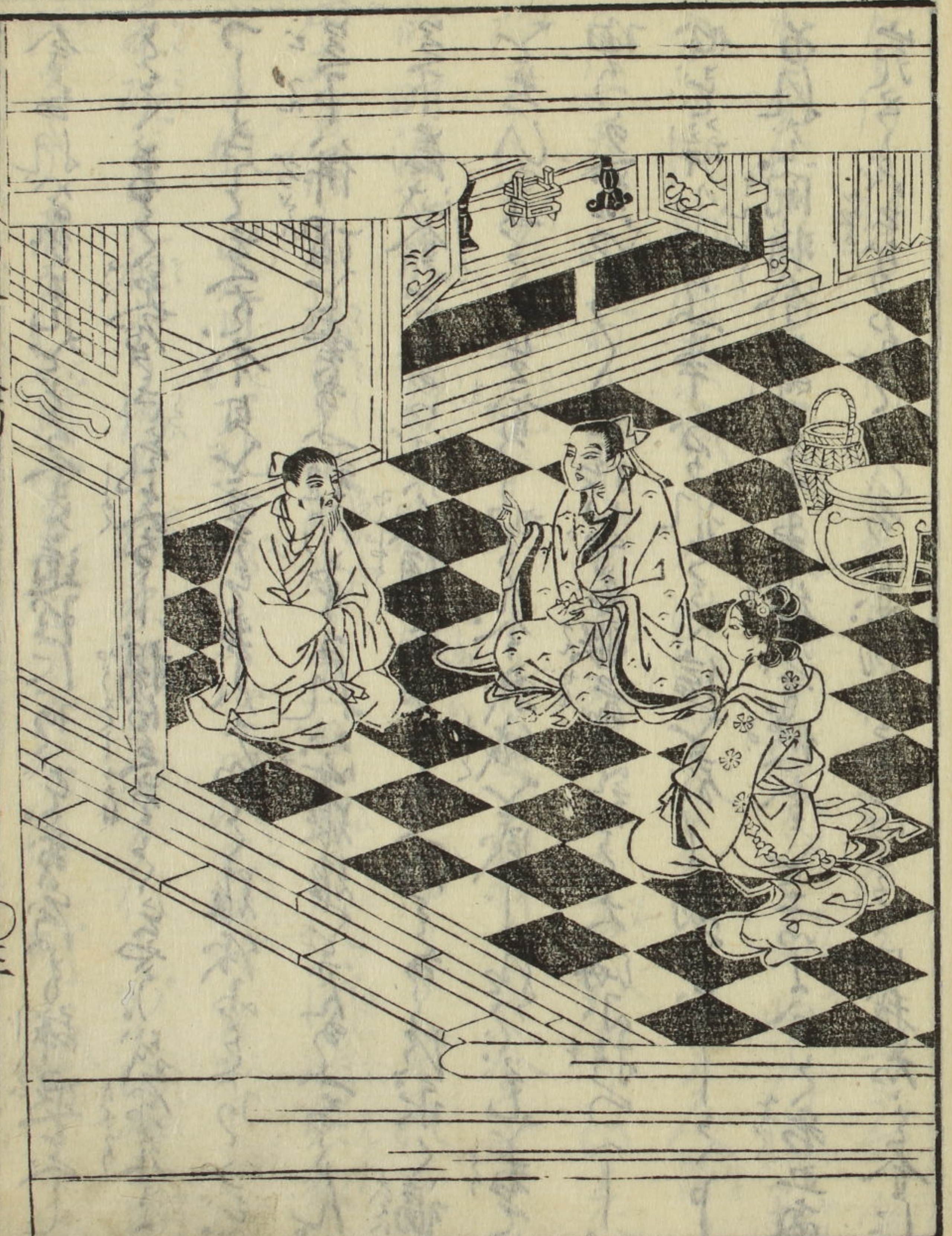
横濱 木村屋

横濱 木村屋

刃波逐々く盛る如くし。是を其善心なり。あひそと取
三副々として揚白之曾く聽きこむ。其日又右に同貨店に往
て彼仏壇に誰かんとあやと賞取あやと。いふれは主
曰是下何ゆ其賞と云るのや。が。一と疑。一と物小
らす心あしく思われよ。この揚白之を多く。彼仏壇に些極
わつゆ。佛より其賞を多く。好む。在り。と。若し。知
し。申の。主。言。右に仏壇に其又其小。極。あ。ぬ。因。由。と
いふ。今。其。賞。を。多。し。り。用。事。向。へ。彼。不。為。佛。と。之。人。也。
則。小。教。から。揚。白。之。信。ひ。直。小。因。將。が。方。成。好。む。作。り
と。い。い。一。一。に。景。なり。因。將。幸。者。に。指。く。揚。白。之

と。佛。心。を。用。み。て。我。と。約。する。と。同。く。揚。白。之。を。ん。以。我。を。授
子。由。る。と。是。れ。と。訪。ひ。作。り。し。自。不。是。り。と。仏。壇。と。賣。法
一。是。る。や。因。將。曰。是。極。貧。小。作。ゆ。之。也。事。と。約。む。と。
先。祖。より。傳。り。し。佛。壇。を。と。賣。法。へ。今。日。此。則。と。訪。
ふ。と。ゆ。一。所。お。又。は。佛。と。同。ひ。の。も。揚。白。之。を。と。や。う。か
を。別。養。ふ。と。あ。や。と。い。は。け。ん。易。く。思。ひ。の。は。其。佛。壇。を
い。や。う。の。指。揮。少。く。作。り。極。子。と。流。り。の。因。由。善。く。極
く。と。傳。り。し。揚。白。之。賞。を。り。仏。壇。に。紛。き。なり。一。時
揚。白。之。日。つ。下。表。映。わ。り。我。家。小。事。の。極。極。意。一
倍。の。な。り。り。因。由。曰。我。の。貧。し。き。者。なり。一。寸。陸

色費つひのりて見合けんあひく耽方たんかたなりを御尋ごじんやさん小こ室むろ
 内うちに先まづつとことやから揚白やうはく之の又また曰い今日けふ服ふくと費つひへ依よりて
 依よりてん其その後のち我われ亦また存ぞんず同どう足そく非ひ同どう道どうなんとて遂つひ小こ関かん將しょう
 と誘よほく宿しゆくはよ解とけし彼かは檀だんとみきく同どう々々八はち定じやう下げは併び
 擧あげと識し徳とくありや関かん將しょうよりしるや是これ乃すなは我われ常じやうへ依より檀だんあり
 時ときは揚白やうはく之の全ぜん子し十じゆ數すうお出でしと始終しじゆうと語かたりし其そのこととて
 小こ還へんさんと彩さいひく依よりし誘よほひやるといふこといふ今いまと持もち
 口くちととまされ関かん將しょう大だいは我われが小こ指さしくはあもそん
 たり親おやををちこらしくさる父ちち代しろ小こ糊こ泥じ置おく事こと
 もや作つくらん然しかもども是こゝ下げ福ふくちとて夫おとことと共ともく之の得とくあり



今更に家老とて... 道徳に... 義を... 辞退...
 ... 揚白... 義... 佛壇... 下... 義... 今... 我... 感... 海... 信... 詞... 今... 辞... 終... 彼... 今... 二... 分... 者... 究... 我... 會...

... 行... 小... 長... 方... 和... 心... 心... 詞... 今... 辭... 終... 彼... 今... 二... 分... 者... 究... 我... 會...

爲
 卷四

き物もつらざる高と小と飲し作快く納りて
 養くとりて揚白之其志と感て茶碗と而もめり
 不既小十日とて小高と揚白と而もめり
 といふ國彼茶碗とて大小登りけ茶碗と河さり
 求事ありて被り小希ある名物なり若くは
 買らんとしひきけ揚白之其志と感て茶碗
 といふ國彼茶碗とて大小登りけ茶碗と河さり
 求事ありて被り小希ある名物なり若くは
 買らんとしひきけ揚白之其志と感て茶碗
 といふ國彼茶碗とて大小登りけ茶碗と河さり

ぬと飲室とす別茶碗乃名と識毒室とりて試小此と入
 ちみせりらんともなと山と入るるに果して五支と現し
 其光り輝小羽つらり揚白之其志と感て茶碗
 といふ國彼茶碗とて大小登りけ茶碗と河さり
 求事ありて被り小希ある名物なり若くは
 買らんとしひきけ揚白之其志と感て茶碗
 といふ國彼茶碗とて大小登りけ茶碗と河さり

かりき、徳の方とある値ありやう、そを只いふ方、福の
 多し、敵と、関將、平治事、有る、は、若浪と送り、なる思ひ
 けり、と、僅四五、あるも、た、之、行、ぐ、二、川、小、分、と、長、り、と、送り
 うんや、心、と、用、也、諫、々、ら、揚、白、之、打、咳、て、曰、我、先、日、十、ある
 今、ま、と、五、と、ん、と、ひ、一、時、も、汝、亦、是、と、割、一、と、折、ら、も、我、心、直
 と、み、と、遠、一、つ、と、い、う、関、將、又、茶、碗、と、送り、今、已、小、二、千、ある
 の、浪、と、い、う、は、せ、い、二、の、小、分、も、千、ある、彼、亦、送り、千、ある、我、家
 又、残、さ、ば、莫、大、に、福、な、らん、汝、等、知、く、眼、と、寄、一、と、信、の、心、を、去、り
 何、事、も、我、了、當、に、は、い、え、一、我、目、と、信、と、関、將、と、誘、ひ、回、り、び、た
 又、お、も、浪、子、と、い、う、ん、と、く、遠、一、と、関、將、が、方、は、往、々、に、関、將、大

小、候、て、曰、來、頃、日、の、波、也、亦、紛、き、と、服、と、い、ふ、と、あ、ら、う、と、な、る、と、
 打、ら、る、秘、小、今、日、を、い、う、ん、と、殊、小、候、り、春、さ、汝、事、を、り、先、後
 と、を、諸、り、と、酒、と、水、と、も、と、と、さ、り、を、何、小、揚、白、之、曰、先、日、我
 一、と、酒、り、一、茶、碗、を、人、の、ら、に、は、り、と、石、圖、も、直、賣、作、成、
 一、札、と、い、う、と、存、一、と、折、と、何、作、成、一、と、関、將、の、心、と、ん
 中、小、喜、ひ、さ、れ、は、其、茶、碗、を、賣、成、し、て、り、物、は、も、一、用、は、直、し
 と、一、想、念、を、り、と、一、小、直、と、賣、成、し、作、と、を、成、一、と、れ、は、心、皆、是、下
 の、心、直、れ、徳、一、信、と、天、ち、と、賣、成、し、福、な、らん、若、我、家、一、折、と、り、
 一、錢、の、直、し、ある、候、一、と、物、と、一、札、と、い、う、と、一、と、十、五、歳、に
 女、見、せ、と、持、く、出、る、揚、白、之、女、見、と、身、を、願、り、容、儀、好、し、と、風

儼然一かゝりて、まゝと申されば、娘あんなに、懐ひ、抱き、と、思は、つゝ、
 一と、我、女、四、人、なり、し、ん、日、の、衣、勝、も、目、録、者、一、の、り、一、の、人、か、つ、と、出、ま、さ、
 け、つ、の、も、是、下、十、数、の、金、子、と、送、り、よ、り、り、子、違、衣、着、と、聞、
 著、者、も、一、れ、今、か、く、と、れ、弟、也、と、出、作、小、卒、業、い、く、も、あ、小、書、の、い、
 侍、り、も、多、方、に、成、成、小、信、の、近、日、言、ま、く、も、い、に、出、さ、ん、と、思、ひ、
 わ、る、く、成、親、置、さ、あ、り、ま、り、揚、白、之、い、類、と、言、ま、く、い、中、小、書、小、極、
 け、り、如、く、英、姫、成、り、女、容、易、也、と、い、り、の、い、く、一、我、を、と、ま、り、
 娘、也、一、聞、將、丈、ぬ、と、永、く、女、抱、致、さ、る、ま、れ、為、道、一、の、ん、又、
 彼、子、あ、り、恨、し、く、八、清、道、具、と、聞、ん、今、世、に、聞、く、一、違、つ、を、
 終、の、向、よ、を、擇、ひ、必、定、か、り、也、と、い、念、娘、と、ま、く、我、子、に、嫁、わ、

け、ん、一、と、第、一、章、一、の、り、一、と、思、ひ、則、聞、將、小、討、ひ、て、ま、い、け、
 と、ま、い、に、わ、一、の、小、卒、業、違、つ、不、便、なり、就、丈、打、は、あ、ま、り、い、娘、と、
 娘、也、と、ま、き、聞、我、小、送、り、給、つ、り、信、然、く、一、親、也、の、好、と、信、ん、あ、
 互、に、女、抱、い、つ、一、若、獨、と、極、ひ、福、と、申、を、お、え、小、家、と、言、ま、し、
 下、の、念、六、つ、と、思、ひ、あ、り、い、く、に、聞、ぬ、若、く、日、我、也、と、言、
 違、つ、り、せ、ん、の、何、れ、ち、は、此、業、か、ま、を、貧、乏、と、果、つ、申、な、り、八、清、
 道、具、と、聞、く、ま、き、使、り、も、一、先、可、得、つ、り、十、数、の、金、子、も、い、
 申、ま、い、の、ま、い、ぬ、る、び、儀、お、た、く、八、清、道、具、と、言、め、り、ん、と、辭、退、
 ぬ、揚、白、言、白、其、儀、ん、易、く、思、ひ、今、日、茶、碗、と、言、つ、る、振、あ、て、
 信、也、と、聞、あ、り、一、是、非、女、兒、と、揚、ま、と、言、く、れ、八、聞、ぬ、也、お、信、ひ、

其後より何なるか、
 揚白が曰、
 我妻小娘と連
 高回んとせけし、
 東と返りて揚白を送り、
 書子を送りて、
 回れ、揚白が曰、
 書子を送りて、
 物来とて、
 とと求む、
 介子とて、



萬
 一
 三

つまらざる分野あり。げんも毎度街はせく。せきも人の傷ひも
 こと負店とに。しほ世間小生。今大平此所代は。常徳あり。しそ負
 漢がどと。とく怪。こも人得り。あ。如府相。と。い。り。後。と。い。り。と。い。り。
 あひ。新。多。の。下。官。い。又。遠。く。て。賊。と。捜。さ。せ。る。向。小。部。信。
 こ。も。ね。ろ。と。ま。り。く。経。に。忠。也。且。躬。も。く。出。る。り。く。い。は。れ。り。小。
 り。く。下。官。を。經。小。賊。と。求。む。と。い。く。と。い。く。日。敷。十。日。後。
 こ。り。ら。み。小。部。信。又。旅。を。く。歸。小。追。る。と。い。す。と。い。は。れ。り。
 こ。の。事。の。山。部。小。忠。ひ。出。あ。け。し。時。は。も。ろ。く。の。も。ろ。く。待。り。し。も。曾。
 て。物。の。着。か。り。り。り。く。知。小。信。有。く。遠。東。此。方。より。年。の。法。に。計。
 の。男。包。紙。と。北。月。の。追。ま。ら。部。信。の。中。小。信。ひ。刀。と。打。揮。て。

陸中も。躍。出。は。遠。く。愛。う。く。通。る。人。い。さ。も。ろ。く。い。急。金。と。い。は。れ。り。
 一。と。呼。り。る。彼。男。略。く。と。す。多。の。油。を。漬。目。性。多。の。人。と。情。と。剪。
 體。が。衣。束。結。と。穿。ん。小。徒。く。賣。と。云。信。小。腰。刀。と。括。く。切。く。取。り。
 部。信。大。い。ぬ。り。い。ん。が。手。腕。を。と。と。ん。と。く。同。く。刀。と。掲。
 多。の。相。違。ひ。皆。く。國。如。向。り。し。と。許。多。共。下。官。進。出。は。小。
 部。信。と。括。括。て。信。府。小。信。は。ぬ。被。包。紙。と。背。る。漢。子。も。有。府。
 の。下。官。が。り。賊。と。呼。ん。が。為。旅。人。作。小。忠。も。り。乞。皆。如。府。相。と。い。
 計。り。如。府。已。に。部。信。の。罪。と。決。一。信。が。家。れ。並。に。壁。に。掛。られ。
 多。の。乞。乃。人。と。傷。一。報。ひ。か。り。忠。も。一。情。と。い。り。

身二 許傲魯奉と殺と半

陝西の城下に許傲と云者あり。朋友小魯奉也。云者と連立傳は
 必して高愛と云。これ僅に在。其の金二百萬。賜を立。其の後。て四
 千。其の許傲。小魯。心。記。一。魯奉。と。教。く。は。恨。と。二。つ。よ
 念。我。め。小。と。ん。と。音。小。中。火。が。と。お。た。と。く。逆。小。魯。奉。と。切。教。し。
 懐。中。と。一。恨。と。と。く。搜。と。く。直。小。魯。奉。に。と。く。所。在。及。と。實。洞。
 當。と。が。一。ま。れ。行。く。教。千。あ。れ。が。恨。者。と。が。成。よ。く。信。魯。奉。と。
 書。陳。氏。の。許。傲。小。夫。と。教。さ。れ。た。め。其。の。心。骨。髓。小。敵。一。何。と。を。敵。と。し。
 多。の。心。意。に。い。ひ。と。く。と。子。魯。奉。今。年。也。歲。小。成。る。と。月。魯。奉。
 して。情。の。中。に。月。日。と。送。る。と。て。小。魯。奉。十七。歳。小。あり。時。母。陳。
 氏。魯。奉。と。禮。く。と。く。我。考。く。汝。小。魯。奉。如。く。父。魯。奉。の。許。傲。と。

小者。小。許。と。名。ひ。く。今。十。三。年。に。乃。が。あり。我。考。に。い。ひ。く。汝。許。傲。
 が。世。を。と。り。し。に。魯。奉。小。禮。一。ん。と。り。人。徒。多。し。と。し。魯。奉。父。に。禮。さ。し。
 夫。小。夫。と。戴。く。子。と。社。の。介。と。は。魯。奉。小。よ。り。と。許。傲。と。討。て。死。す。
 小。と。一。由。と。父。の。魯。奉。に。し。我。が。情。と。と。を。体。す。よ。と。魯。奉。一。代。考。行。
 かん。と。言。と。く。一。情。た。れ。魯。奉。頓。小。泪。と。流。し。小。今。一。由。
 かく。も。思。ひ。の。も。と。母。れ。と。情。と。あ。る。存。念。と。り。お。ざ。り。し。よ。
 多。く。作。と。ある。と。一。幸。が。も。と。早。く。死。と。り。一。敵。許。傲。と。討。て。死。す。存。
 小。魯。奉。一。然。り。と。我。魯。奉。と。許。傲。が。面。然。と。さ。り。好。河。と。神。社。に。よ。
 け。つ。と。も。母。れ。白。と。れ。と。一。我。が。わ。れ。と。の。ひ。つ。き。魯。奉。と。情。が。か。く。
 ち。と。画。小。魯。奉。と。持。た。し。魯。奉。送。る。と。く。其。の。圖。と。お。出。し。

も多かれ尊厳なる成りて本心悟れば一行の如くあらんこと
其日神母に別して南系にて老々る程しく修成の事と云ふ
毎日御出く通く口言と為留りたれを修成の如く人あも過
さうけし尊厳の中は修成の如く修成の如く修成の如く
小修と云ふ言ふ事ありけり修成の如く修成の如く修成の如く
冥心と修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
二八計の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
一やうの如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く

るる事あり修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
は男の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
さむく小閑事言修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
さむく修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
はのく修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
むさく修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
まの如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
るさ修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く
救ひの如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く修成の如く

の身もしく。唯独りい地も有り。初る親類も。遊どんごう
 便がらん。ん。汝を我小。今。車。水。投。て。や。
 厥。小。其。我。生。國。使。西。不。行。は。自。越。
 皆。く。は。こ。ど。か。り。た。れ。ど。支。率。年。頑。甚。ら。れ。ど。生。ん。成。ん
 小。思。ひ。部。許。傲。と。た。ぬ。と。呼。り。り。ま。し。謝。意。は。あ。ら。わ。れ。し。
 ま。か。ら。ん。人。持。し。ま。く。愈。ふ。ま。し。は。り。し。と。我。が。回。り。と。か。ら。ん
 ぞ。と。心。な。れ。い。魯。城。者。我。を。汝。ご。い。無。く。殺。す。自。身。奉。り。ま
 した。親。乃。汝。今。あ。い。知。り。ん。と。刀。以。振。く。破。く。暮。る。洋。傲
 原。東。自。快。と。者。ま。し。目。ど。く。腰。刀。と。振。合。を。良。久。く。闘。れ
 ども。勝。負。未。分。と。ぞ。の。ま。し。洋。傲。が。人。を。各。刀。以。揮。て。必。死。の



此亦京東人而難之者其肉之骨に得來も拂され
 ざる人々も命を危くしける事小忽然として一人將軍
 堀を許傲が家人の心方奸毒に播消極小夫孫許傲は
 伴として大怖色遂に曾越小頑快も街の病と化しける曾
 越越く首を削為一國帝菩薩と礼ひて其長城外津出
 長江目に傍ぐ本國を回しける掠先小現も將軍を
 國帝菩薩なり。南比の人其中とゆらむ比屬と新し小建之
 其の流人程とまげらるるごとく詰りて方なりきりされば
 大らほ思ひなき心と神かとれらる事ほほしくかかれらる

弟に 曾周人と救て寺と延てらる

寧波の城下に曾周といふ人あり。一日人相とてる先生十有
 曾年六人といふやう。是下小短命の相あり二十五年は
 必じ死しあり。一日用ありて一也若かきまの曾周又は
 五日さく竹先生に遇り先生は死したる風信もく。是下此
 人相八十歳乃壽あり。一也。俄命する。必定法徳とけいひあり
 けしん様子に終りありといひかれの曾周もく。我は自城
 外に御下し世を回るるに途中より移く一人の老女を逢つ。け
 若女はとて身と撮んとせ。一也。我もふそと好ひ其相を
 問ふれど若者がつら。我も一はと婚の爲小養も優もす
 侍りしに若女はを婚せり。一也。若女も若くも嫁を

多きれは中ふ家貧し〜〜〜〜〜
 多に思ひて仍今此池に於て〜
 りんと〜〜〜〜〜
 老や〜〜〜〜〜
 是乃大徳也〜〜〜
 歳乃守り〜〜〜
 八十歳乃壽と傳ち子孫繁昌〜

第五 魯徹法徳之行

雲州乃城下小魯徹と云者わ〜
 と稱つ〜〜〜
 六十餘の老翁と十四五歳いせいじゆうの女にせう同い宿しゆく〜
 抱持だうぢ〜〜〜
 抱持だうぢ〜〜〜

る能くぞいあましく救とぬあまりに救も去年病死な
し其秋とともつらさき今更進退て小窮りも好小なり
乞食なり。頂目いさし徘徊たり作れ好く、憐れと棄て
おきやこれあましく曾徹とくさしと何んともひ極子とば
同じらる。我必ぞ救ふ人とのえ。我家の事、任して
人と速もめ宅小飯。妻子をにけと昔々、若情小ひて
怨む抱と曾徹女兒とらに容儀十人勝ま、さぞ
一嫁きりく父程儀と婚、怒りしんと思ひさく、合
さく婚と好ひらる小幸ひ徐弗と云商人同く貴別乃
者、くわつげらるる好しともいさく、即彼女兒と

程儀と味ぬあましく、小曾徹或年他西、出二十
里斗の流しと船よきて、越らるる俄、大江、船に、
ひり、曾徹并小、船人、必定いぬと指、さ、
天と、安穩あり、つら、不思は、時、
わりの、け、船、曾徹とい、其、流、
か、船、叫、らる、其、船、思、平、さ、後、
對、向、れ、船、よ、る、船、人、曾、徹、と、言、
限、り、あ、き、皆、天、の、社、も、ん、然、も、有、が、
ら、ら、と、あ、り、が、ら、大、冠、と、道、く、
右、今、小、説、小、ん、と、り

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

新編 卷之四終

第一 薛東之乳母と毒の事

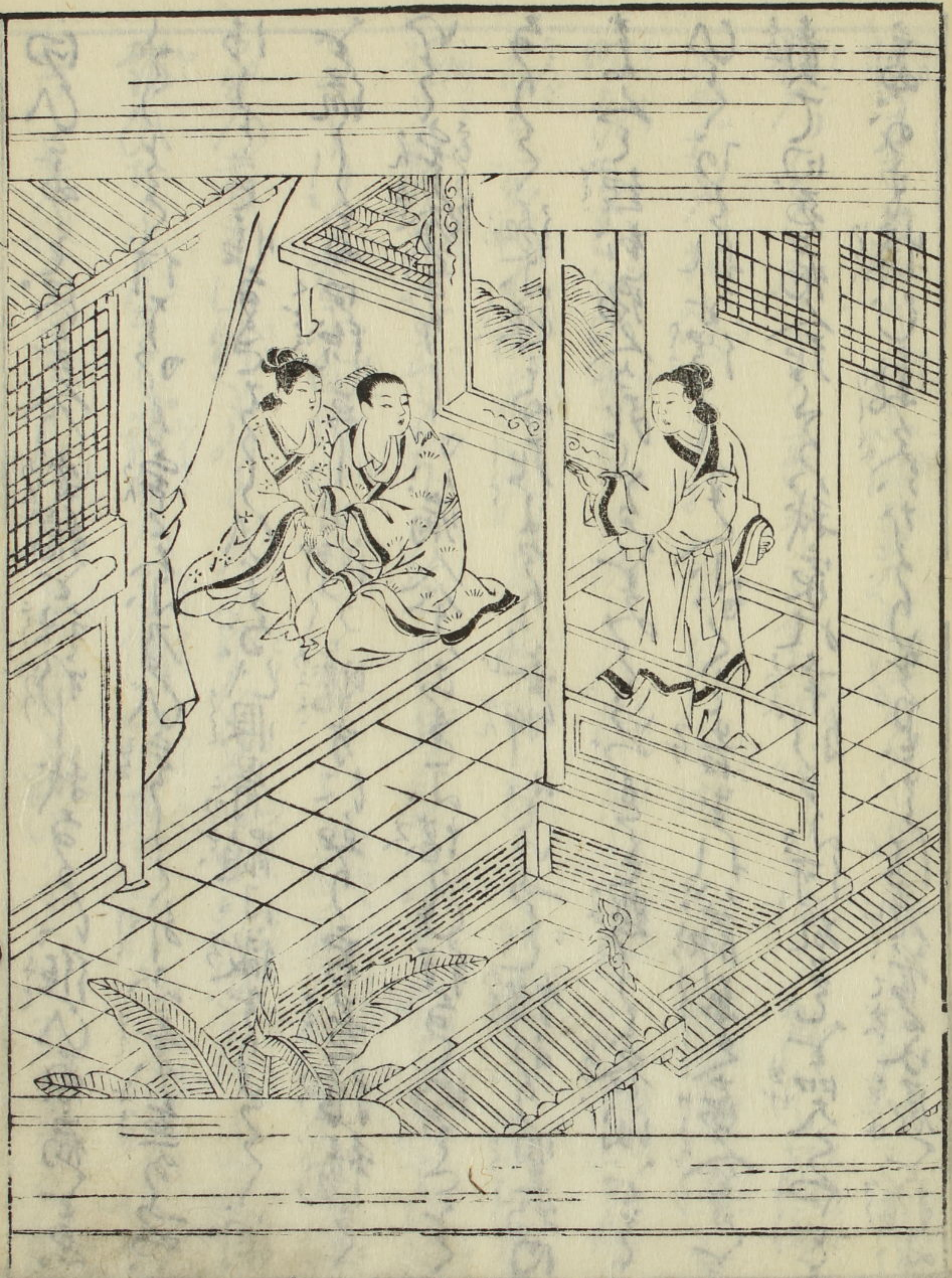


元乃 紹定年中に出西といふ國小薛東之とて大富貴なる
人なり元乃天子に打ち金銀を獻じりけるが帝此御感と
しりて威勢と近國小振ひおびた驕者たり。そゆ家小
わたり行ともむるの實と指しぬ家小とむ十人の業を
と家小の業とむるゆゑに薛東しが乳母六十餘人成
をらり薛東之と強解乃中より懐育し訓海と名を置
所の家小は寧代とて務しぬ家中に男共ありて乳
母とてこもりおしける。されば乳母の有り世に因果の
りもん痲病とありて家小にさし面己小振と名を置し申小

月夜と送りありぬ。或時藤東之門子去小向。彼乳母頂
 我前小片さる。いつもなぐと。わ。の。子。ま。日。渠。今。瘵。物
 と。更。十。死。一。生。の。祥。あり。と。未。云。ま。う。く。さ。る。小。藤。東。之。大。小。乳。母
 の。目。や。小。乳。母。人。の。付。は。其。家。に。妻。あり。と。り。其。家。に
 く。一。高。ご。儀。ども。小。片。付。く。事。と。出。し。山。中。に。棄。置。し。
 門。子。と。い。い。言。と。せ。り。各。面。と。ん。今。を。齊。く。踏。く。ま。う。彼。人
 を。主。人。乳。母。と。い。ひ。辨。ち。あ。わ。り。者。な。も。情。さ。く。棄。置。ま。く。小
 わ。ど。大。く。得。く。病。し。症。あ。る。毎。日。言。自。ま。ら。た。ら。ん。と。い。ふ
 く。あり。り。せん。小。乳。母。我。公。共。る。と。侍。ま。り。と。り。給。と。い。ふ。と。按
 之。傳。た。れ。藤。東。之。大。小。乳。母。汝。家。が。妻。と。更。さ。り。と。何。し。

や。一。の。め。我。が。命。小。片。く。わ。若。渠。儀。許。し。く。ま。り。と。い。ふ。
 我。家。心。妻。一。其。時。小。乳。母。の。情。悔。と。を。何。乃。答。り。し。ら。ん。と。い。ふ。
 老。首。家。王。逸。と。い。ふ。者。汝。を。何。儀。一。く。り。ま。り。汝。容。に。侍。て
 彼。瘵。病人。と。連。出。し。深。山。小。葉。を。食。り。其。の。途。急。げ。と。進。む。
 之。逸。と。い。ふ。者。其。時。と。い。ふ。事。に。侍。て。ま。り。彼。乳。母。と。り。之。細。く
 ま。し。海。と。い。ふ。事。を。辨。ち。ま。り。汝。が。命。を。一。く。り。ま。り。と。い。ふ。事。
 一。の。め。我。が。命。小。片。く。わ。若。渠。儀。許。し。く。ま。り。と。い。ふ。
 情。さ。く。と。傳。と。山。中。小。葉。あり。と。世。に。此。乳。母。の。命。許。り。答。等。次
 然。る。が。う。に。は。其。心。に。有。る。其。事。と。傳。と。乳。母。一。瘵。病
 と。亦。一。の。め。我。が。命。小。片。く。わ。若。渠。儀。許。し。く。ま。り。と。い。ふ。事。

くるに藤原の言とて笑く良久しく按じく又も
 此の傳言最たるはとていと傳とて内小指をく
 構ふもれも家たたふ不きなり今晚より存り留
 せし病もあつてあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
 當りて病もあつてあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
 乃びと領事ありてあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 主とて大なる降りてあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ
 く成る病活きあり若痛終てはあはれはあはれはあはれはあはれ
 此の被着のいととてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 此の被着のいととてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて



源氏物語 卷五

心いふも只ま今安穩と社祈し我るに後い悪病と云
 けりとも何ぞの事なるべしとて外に業をせむ
 けりとも信ずるもいふに恨骨髄小徹たりとて
 流しも口説きし漸く曉方に知り若き時穢穢と
 して字今ありし病人今も小極の程なりとて
 ありとて遂に凍も死より喜漸やとて何れり聖徳の
 まんを起す病人が死よりとてみくりも悲しと各道とて
 ひくありし程にまじくと若きし故も之を等と
 責て曰悪病死るに我家に幸なり何れとて哭くやと
 云ふも憐し氣多かりきりともは老僧もは居しけり

收り寺に送り松小御事と没きとて追薦し如教の光法
 授りてくふく其年也幸半のついでにまじりて後海
 とても乃折小御事と折あり良れ在困も老若無事成儀と
 何れにありし程の事氣小清りし故も之を等と
 志とて此に玉圓病とていふもあをまじりて痛や小勝とて
 極く醫治せしとていふもあをまじりて痛や小勝とて
 けりともいふ小回体は事とていふもあをまじりて痛や小勝とて
 家乃者をは解とていふもあをまじりて痛や小勝とて
 世のいふもいふ許多の事僧山伏聖とていふもあをまじりて痛や小勝とて
 有しをいふもいふ病とていふもあをまじりて痛や小勝とて

東之今より其報ひらる事と毎朝り自に悔しむ事極
我思く切りの事と棄てて大も其報とみきりたれん
かゝる切りの事と亦棄てて受てあつてさうして上り
痛泣して一衫待とらうとていふも本後せん子難らん
宣一素茶成止め死とてそむせしと強如く先と誓ひ
其日より薬とて飲して只念佛と習はせり嘗と志とら
かり王逸とて先とておれ家々各泪と酒とて入る若向小世
心わく今日け病ひ受あふ事有御りき小世念此歎起し
して恨たれし何とそと悲あつ耐小節と事とて遺
言して曰我の事と報らる事と志とてぞと多年悪業と

作り新(切)ら乳母と寄中に棄ててけりけり勿れ
小報とて人々病とて初くと苦しと知り乳母が
陰徳とて我と恨いらん汝等向は慈悲と專らしめ
家人と情とて密小報依して吾根と病とて。若我あそ
あま業と作らば家滅とせん事疑はれど我今過と知り先非
と悔と事とていらんとなりて痛苦に通くと願はれどあ
陰徳と進せん小用なき事や作され事子孫小管家を
一同小流流し彼が事とていふ事ありて許さるる事
二年十月廿二日れ秋行年二十四歳と限して病乃度小
死なり抄被節意と其身富き家小生れ切と耐り父母

の婿とて嫁り。満人乃る小好きて日小奉とて此がし側
陰の心あり。さうある。く恩切き。乳母と称し。果とて現
る報と約り。因果應然の理の人の証。孫孫集に云り

身二 黄得婿と歎く禍とある事

唐の宗寧、年中、小山東に御し。黄得と云者。多岐多岐朋友
の中に、蘇佐と云者と親しく交り。玉綿といふ人の女を愛
慕。佐子蘇某、小嫁とて。むじと幼未し。立小聘礼とせり。ぬ
い時、黄得が女、二歳、蘇佐が女、三歳あり。蘇某、又歳た。父蘇
佐病ありぬ。其母蘇氏、自ら嘗て。子とて蘇某と名を置し。
七歳の時、初とて待書と讀き。けり。蘇某、生質、聰明あり。母

終の日に。しきと後と有り。十歳の時、独り待とて。法
人の年とある。さう。され。先法ある。早十七歳ありぬ。
さへ。遍く百家の事と學ぶ。て。理小通とて。いふ。は。
然き。とも。家次第に。妻と。物々。貧しく。けり。後
留。黃得。頻小。獲。某と。婿。の。晴小。婿と。稱んで。郭令と云
者。小婿と。お。替んと。保。道。小。婿。の。依。と。行り。ん。世。不
ふ。玉。綿。は。極。小。と。聞。き。母。小。お。が。り。き。乳。母。と。唱。ん。て。き。ける。は。
我が。父母。蘇。某。に。貧。く。さ。と。婿。ひ。の。ひ。と。我。と。お。今。婿。と。ん。
圖り。あ。す。す。さ。り。と。て。罪。乃。た。ら。だ。と。親。に。命。を。さ。し。し。こ。
い。ら。る。蘇。同。小。を。い。し。を。何。ぞ。一。旦。解。物。と。男。と。妻。て

他小娘さるるもあらんや情亦今宵獲業と振ひては
 と昔我身ふりてはなほはなほひきかゝん程ふは晴ふは
 と道守と我は河内守の悦気小娘をいふは
 されしおれされ乳母とてはかゝるは情いふは
 ありふと密に因りてはなほはなほはなほはなほは
 綿が房圓もあら玉指獲業と向く涙と流しは
 邊もしり我身ふりてはなほはなほはなほはなほは
 こゝれは母の郭合とてはなほはなほはなほはなほは
 昔もは獲業おとりにてはなほはなほはなほはなほは
 昔は獲業とてはなほはなほはなほはなほはなほは
 昔は獲業とてはなほはなほはなほはなほはなほは

ありふもあらんや情亦今宵獲業と振ひては
 と昔我身ふりてはなほはなほひきかゝん程ふは晴ふは
 と道守と我は河内守の悦気小娘をいふは
 されしおれされ乳母とてはかゝるは情いふは
 ありふと密に因りてはなほはなほはなほはなほは
 綿が房圓もあら玉指獲業と向く涙と流しは
 邊もしり我身ふりてはなほはなほはなほはなほは
 こゝれは母の郭合とてはなほはなほはなほはなほは
 昔もは獲業おとりにてはなほはなほはなほはなほは
 昔は獲業とてはなほはなほはなほはなほはなほは
 昔は獲業とてはなほはなほはなほはなほはなほは

のるに笑りて一紙を懐くとししと物に改りて父母を以て
 いひたるは汝若年あり争りて理と安んず我こそは汝の考
 安堵と計りぬいすは行唯老親の安んに任す心とあはらま
 うもて再々練しども玉錦貴く兼いさし着けるはひひひ
 我自り頭を擡て死せしと流る涙珠の如く父母は作し
 ぬれ小斗りたるは先郭令と括ひて我れが一人を折く玉錦と
 練めしと心証和らげ終る郭令家きりん終せしといふに
 位指定萩葉私玉錦の方回通せん料こそ一幸有列
 の城外に親族あり宜く信託小納りて萩葉と消息を綴
 こし玉錦と信く婚れとせんをこそいひたるは對ひしと

羽前郭令指入るるは子とて女ありて探りて居るとあり
 あが梅もさるされ玉錦は日と新く萩葉と兼合しして互
 し心とて一樂とらる如今日と小青列は梅りしは玉錦萩葉が
 ましとていひせ一樂とらる外なく萩葉も玉錦と源の暮人天
 下太平して世に控りて心恨と太守に祈んて心と今所よ
 我有り諸別信府都て新の境かき守らるる今下れ萩府知
 縣名所路とある所部かき守らるる後ひしすとも萩府に祈んて心
 と玉錦首得たるは玉錦路とて新く萩府と兼合しして一
 如く萩府の如くお侍しは恨と暇せん物とて情とてかきと
 かくしとていひしは日とていひけるは梅葉首得る青列の城外に

大屋と愛個つくまに言ふ一の黃得まね玉錦と云く郭公小娘
 せりんと娘の或い真り或い熱く一と傳きた玉錦が
 ん金鉄の如く一と云ふ娘のまじりか父母大お娘の御親らん
 小者事不孝の罪状のすくま痛みの深國の御おど一と
 めくら一ちけらる娘のまじりか二箇はまの一と云ふ
 梁山泊といふ在る小亭傳のまよ達項克と云くあり黃得が
 面まかるまよと云ふ人の時小高候しと云ふ六は白首列謀の
 手に出あるといふまよの富人黃得と云者位番と云く何れをも
 禦いあれ不仁に不義の者まよと云ま錦のいで定と奪あらん
 小用まよと云と浮候しと云下れ小賊十餘人と引具しと云文

人静くは黃得が家に礼入し一家の男女と云く御教を言ふ
 室に探れらる娘の小玉錦只独り深國の門に在らる娘を達
 家へ控めまよ入しに候しんとせり時項克早く進ぐは
 ちとまよ達と抱負回寄し御教を傳せと云ふは法親なきは
 あり何れも彼を候し我まよが御領家君小款しりつと云ふ
 免前我言に従ひまよめ娘玉錦と云く梁山泊小娘の
 くれ氏宗江よ候し一は宗江を召たまひの娘と云せといふ
 こよりおせらるやまよ達項克娘は乃存よと云まよ宗江よ
 錦小射しと云は父母の東に者かると云く我者自らまよ
 時黃得の事と云くまよ入り何れも又黄得よ一掃りありと云

錦海と清く高く我々の道に福の傍りけり
 かくして種菜と海を影に圍りし事を
 とやかく不感に汝百世に守る事汝の
 しくぬ金銀綿布と云く玉綿のり
 考しと高傑れを附くを任承ふ
 宗江の志と感し海流の思ひ
 かく東城小の神錦の志と我の
 玉綿の志と感し海流の思ひ
 かく東城小の神錦の志と我の
 玉綿の志と感し海流の思ひ

是より向うまをて遠くは相別きぬ
 菜が室に宿るは種菜母子は
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして
 かく青列の傍り今は何ぞして

いひたるごとく昔にきく傳説にける玉律がまゝ我父母も亦に
しころ猶ほ小遣ふとて大命がまゝ自ら振ふる事へまされ
た。只親を別れしと悲むのりからうともあつてとて深しける
罪玉律義とまじりしは天の神とまじりて今と脱き別れの
妻小遣ふとして子流し受け家もく懸置しあつたり信
後記として小説の書小遣ふと載侍りぬ

第三 蔣膏白玉と聖母

東の城下小蔣膏とて聖母あり今年二十四歳なりしは
極つる美なりしとて親小遣ふとて孝行とて武村の友に
多連く遊ばし玉若くは詩文と作つて聖母侍りたる玉好

遠くを去り者有らむとて今遊そより回りに直小花掛ありしは
幸ありぬとて又と樂まふ平生は詩句一時に看とて各々宮
のりんと同され總て五六人の朋をまじりて遊ばし何の
らまじりぬ。一時は紫花小の紫と樂んたりしとて。一回小
まじりぬ。其中に蔣膏唯一人父母とてあひ行とてい場と懸を
とれをさす人信とてあまの毒まじりぬ。遂小隨て
花掛に住む。白出とてあまの家小むく各頭城と懸ゆ。酒果
と備へ樂まふ。これを蔣膏は只親父母とて思ひ。心まじり
され。親とて目入ぬ。無愛れ。あまの。面小赤し。時小蔣膏
ら下れ。顔白玉とてい体とてあまの。我今とて

の若小過なれはけりたは風流の人の流るるにけりたはけり
結を何ぞも事なれはけりたはけりたはけりたはけりたはけり
膏の小進はるるにけりたはけりたはけりたはけりたはけり
同く本はるるにけりたはけりたはけりたはけりたはけり
と悦んでるるにけりたはけりたはけりたはけりたはけり
偏小我はるるにけりたはけりたはけりたはけりたはけり
うもつらふにけりたはけりたはけりたはけりたはけり

昔の夢はかゝりたはけりたはけりたはけりたはけり
幸う夢のりきんをたれにけりたはけりたはけりたはけり
ありたはけりたはけりたはけりたはけりたはけり
あつたはけりたはけりたはけりたはけりたはけり
しるは親の心をたれと思ふたはけりたはけりたはけり
回も父母の夢をたれにけりたはけりたはけりたはけり
夜は明か小流をたれにけりたはけりたはけりたはけり
侍もん事と男の行中にもたはけりたはけりたはけり
と回へたはけりたはけりたはけりたはけりたはけり
いとたはけりたはけりたはけりたはけりたはけり

本威ト云彼小大考リ此賢今ウツル事トハ家ハ
 留ヲ進クモ一トモ為情カレ此ト早ウ回ルモノハ神親
 怒ルハ一後日ニ好コサカウハ心トハ感他物来ト云レ
 と云ク家ト一モ利シケル者ハ回ルハ心トハ感他物来ト云レ
 蔣膏父母ノモシ情ト一侍院カケル蔣膏御ノ事ハ今
 日接ナレ事會小同クモ好クモ望致一邸宅進ク作所
 杖也馬ノ事ウツルヤト一様で何ハカ父母法トモ悦ビ
 ナク回ルハ一ハ好クモ道我トモ早ウ回ルハ心トハ感
 國ハ一ハ好クモ蔣膏親也ハ一彼白也奴ガ此賢人ト云ク
 心小勝モ一貫シ夜物来ト云キト一近又彼ノ情ト一礼ト

蔣膏一ハ好クモ蔣膏親也ハ一彼白也奴ガ此賢人ト云ク
 ナク回ルハ一ハ好クモ道我トモ早ウ回ルハ心トハ感
 國ハ一ハ好クモ蔣膏親也ハ一彼白也奴ガ此賢人ト云ク
 心小勝モ一貫シ夜物来ト云キト一近又彼ノ情ト一礼ト
 蔣膏一ハ好クモ蔣膏親也ハ一彼白也奴ガ此賢人ト云ク
 ナク回ルハ一ハ好クモ道我トモ早ウ回ルハ心トハ感
 國ハ一ハ好クモ蔣膏親也ハ一彼白也奴ガ此賢人ト云ク
 心小勝モ一貫シ夜物来ト云キト一近又彼ノ情ト一礼ト
 蔣膏一ハ好クモ蔣膏親也ハ一彼白也奴ガ此賢人ト云ク
 ナク回ルハ一ハ好クモ道我トモ早ウ回ルハ心トハ感
 國ハ一ハ好クモ蔣膏親也ハ一彼白也奴ガ此賢人ト云ク
 心小勝モ一貫シ夜物来ト云キト一近又彼ノ情ト一礼ト

